

群馬県立前橋工業高等学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 各教育活動に満足している生徒が70%以上である。	・創意工夫に満ちた教育活動を展開する。 ・各教科で体験的学習を取り入れる。 ・選択授業・少人数授業を実施する。 ・授業参観・授業研究会を実施する。	B	B	B	・教員相互の研究授業や授業研究等を通して教育技術の向上を図った。よりわかりやすい授業を行うために、研究授業や授業研究等を通して教員の授業力をさらに高める必要がある。	・インターンシップについて、イギリスのおおかたの大学では三年生の時は1年間かけて実施するとしている。長期のインターンシップの効果が高いと評価されているからである。日本では、長期となると準備等かなりの時期を要するため、踏み切れないのが現状であると考えられる。このことを踏まえ実業高校では、実施期間数ヶ月のインターンシップに挑戦してみてもどうかと考える。 ・楽しくなるものづくりに挑戦は高く評価したい。 ・全日制の生徒が行った課題研究発表は完成度が高く、就職後の企業に於いても十分に対応できる人材育成、社会的役割等が感じられた。 ・ものづくりが楽しくなる工夫、資格試験指導、積極的な課外活用、企業等見学、OBや企業人からの講演など、工業高校の特色を生かし、様々な機会をとらえて効果的な教育に努めている様子がうかがえる。
		(2) 生徒が在学中に1回以上インターンシップに参加している。	・インターンシップ（短期・長期）を実施する。	B	B	B	・コロナ禍が終わったが、学校でのインフルエンザや新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めるとともに、企業との連携に力を入れる必要がある。	
2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	(3) 工業の特長を生かしたものづくりに積極的に取り組み、実習内容に満足している生徒が70%以上である。	・実習では、ものづくりが楽しくなる工夫を行い、生徒が積極的に参加できるようにする。 ・各科研究部等では、専門性を深めるため積極的な課外活動に取り組む。	A	A	A	・各学科とも基礎・基本の知識と技術・技能の定着を目指し3年間で体系的に学べるカリキュラムとしている。実習で身に付けた力を3年次の課題研究へと繋げている。 ・各科研究部では、より広く・深く専門性を学ぶことを目標に活動し成果を上げている。	・学科の特性を生かした資格指導に取り組み、各種の資格において合格者が増加した。特に、ジュニアマイスター顕彰制度による特別表彰は昨年度以上に合格者が増加した。次年度も合格率が上がるよう、放課後の時間等を有効活用しながら生徒の指導に努める。
		(4) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	・行事を充実させ、職員と生徒で運営できるようにする。 ・OBや社会人による講演を行う。 ・前工生であるという帰属意識とプライドを醸成する。	B	B	B	・生徒と教員が魅力ある学校作りに向けて努力した。わかりやすい授業や魅力ある学校行事を展開し、さらに学校の魅力を高めることが今後の課題である。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(5) 生徒の資格指導に対する満足度は、80%以上である。	・資格・検定・講習会の紹介により受験を促す。 ・補習指導を各科・各係で実施する。 ・家庭学習や放課後の時間を有効活用する指導を行う。	A	B	A	・すべての授業でアクティブ・ラーニングによる授業実践を心掛けた。学校の学習指導に満足、ほぼ満足している生徒が比較的多いものの、今後も新学習指導要領の趣旨や改善点を踏まえて質の高い教育活動を展開する必要がある。	・2学期の欠点保持者数は生徒全体の9.3%である。 ・長期欠席者に複数の欠点科目を抱えている傾向が見られる。
		(6) 生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が70%以上である。	・生徒の実態に合った授業や、教材づくりなど各科でわかりやすい授業に取り組む。 ・授業における言語活動の充実を図る。 ・試験前、試験中に勉強会を行う。（学年） ・学習遅れの生徒へ補習する。（各教科） ・授業アンケートを基に授業改善に心掛ける。 ・ICT機器を活用した効果的な指導を行う。	B	B	B	・教育相談係やスクールカウンセラーと連携して、支援が必要な生徒に対応した。スピーディな情報共有に努め、それぞれの学級組織において、職員間の情報共有が促進するように努める必要がある。	
4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(7) 欠点保持者数は各学期で全校の10%以下である。	・成績不振者に対し補習授業を行う。 ・履修科目を修得させる努力をさせる。 ・基礎、基本の知識が定着する授業を展開する。	A	A	A	・学期に1度の学校生活アンケートや日頃の職員と生徒の関わりの中で、生徒の問題を早期に発見し、対応することができた。・あいさつ運動や日頃の職員と生徒の良好な関係の構築により、生徒が主体的にあいさつするようになった。	・生活アンケートや面談週間を設け、生徒の悩み相談の機会を設けていること。また、いじめ防止やSNSによるトラブル防止に力を入れていることを高く評価する。
		(8) 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	・情報交換会を実施する。 ・各科と担任の情報交換を密にする。 ・定期学年会で情報交換する。 ・職員会議、成績会議で情報交換する。 ・各会議での情報を共有できるようにする。	B	B	B	・「ケータイ安全教室」「サイバー犯罪防止教室」「いじめ防止フォーラム発表会」を実施し、SNSによるトラブルやSNSに頼らない人間関係の構築に向け指導を行う。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9) 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	・学校生活アンケートや面談週間などで、悩みや不安を学校職員に伝える機会を設け、未然防止や早期発見に結びつける。 ・生徒が中心となって、あいさつ運動を展開する。	A	A	A	・「ケータイ安全教室」「サイバー犯罪防止教室」「いじめ防止フォーラム発表会」を実施し、SNSによるトラブルやSNSに頼らない人間関係の構築に向け指導を行う。	・生活アンケートや面談週間を設け、生徒の悩み相談の機会を設けていること。また、いじめ防止やSNSによるトラブル防止に力を入れていることを高く評価する。
		(10) 学校は、「学校いじめ防止基本方針」について、1回以上生徒に説明している。	・年度当初に、学年集会や全校集会で「学校いじめ防止基本方針」を説明し、いじめは絶対にあってはならないことを伝えていく。	A	A	A	・様々な行事を通して、SNSの良好な使い方を学んだ。またこころの教育事業を通じ、人間関係の構築と社会に出てからの対応についても学んだ。	
6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	(11) 学校は、生徒がSNS(ツイッターやラインなど)やインターネットの危険性や正しい利用方法などについて、1回以上は学ぶ機会をつくっている。	・進路指導も見据えた指導を行う。 ・遅刻カード(イエローカード)の記入を徹底する。 ・欠席遅刻が多くなりそうな生徒には、家庭へ連絡し早期改善に努める。 ・基本的な生活習慣を確立させる。	B	B	B	・規範意識や社会性を身につけ、インターンシップや面接などに役立たせた。 ・遅刻カードを記入し、指導を受けることで遅刻防止に役立たせ、規則正しい生活を身につかせた。	・生徒自身のことを一番理解しているのは担任であり、すでに実施されていることと思うが、担任の進路相談も十分な時間を取っていただけたらと考える。 ・生徒が本当に好きでやりたい事で就職したい企業に対して、進路指導も生徒の本来の考えに添った指導のあり方は、十分にアンケートの中からも感じた。 ・先輩と語る会や企業見学の取組に加え、進路情報提供についても保護者アンケートの満足度が高い結果から、進路指導がしっかり行き届いていると評価できる。
		(12) 家庭と連携をとりながら、生徒の怠慢による欠席・遅刻をなくし、1日平均遅刻者数は前年度の9.8%以下である。	・検診結果により治療が必要な生徒に治療助成を行う。 ・担任、看護教諭等で指導機会を増やす。 ・保健だよりを発行し、保健意識の啓発を図る。	A	A	A	・新入生歓迎会(部活動ガイダンス)により、新入生への部活動加入を促す。 ・部活動の諸調整を行い活動の活性化を図る。	
7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(13) 治療助成を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査の必要のある生徒の受診率は80%以上である。	・先輩と語る会や3年生と語る会を実施する。 ・進路希望調査を実施する。(年2回) ・進路講話や進路ガイダンスを計画的に実施する。 ・校内公務員模試を実施する。 ・各科との協力のもと、企業見学やインターンシップを実施する。	B	B	B	・進学、就職、公務員希望など生徒一人一人の多様化する進路希望について、各種の進路ガイダンスを実施することができた。次年度についても、生徒一人一人に寄り添った丁寧な進路指導に心がけ、学級担任を中心に生徒の第一志望の進路実現に努める。	・将来を考えた学習活動を行い、主体的に進路選択し自己実現を図っていくことができるような生徒を育成することができた。次年度についても、生徒の能力や資質を伸ばせるように計画的・系統的な進路指導を実践する。
		(14) 部活動に積極的に取り組んでいますか。	・進路のしおりを作成し配布する。 ・保護者対象の進路説明会を実施する。 ・Webページを活用し、進路行事や進路状況載せる。 ・2者及び3者面談を実施し、進路希望の確認を行う。 ・進路情報を提供し、学級担任と協力して生徒を指導する。	A	A	A	・生徒や保護者が必要な情報を得られるように配慮し、ICT機器の活用にも心がけ効率化を図ることができた。次年度に向けて、保護者や地域社会の要望なども取り入れながら、進路指導・キャリア教育の推進および精選に努める。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	(15) 進路関係の行事やガイダンスを年5回以上実施する。	・新入生歓迎会(部活動ガイダンス)により、新入生への部活動加入を促す。 ・部活動の諸調整を行い活動の活性化を図る。	A	A	A	・地域住民に対しては、Webページ等を通じて授業の様子を随時発信するなど、本校の教育活動の周知方法が課題である。	・「前工だより」を地域配布していると伺っている。校内には感動ニュース等多岐にわたったものがあり、多くの地域住民に知っていただくことは大切なことであると考えられる。このことを開かれた学校づくりであり、継続をお願いしたい。 ・地域社会に出てからは、各個人の積極性も問われています。地域社会に対する方策も、十分ではあるが更なる継続を。 ・「前工だより」の地域への配布は好評で、とてもいい取組だと思う。 ・課題研究発表会(全日制、定時制とも)はとてもよかった。ぜひ保護者にも見てもらえるよう、保護者が参加できるようにするとよい。
		(16) 学校からの進路に関する情報について満足している保護者が80%以上である。	・進路だよりを定期的に発行する。 ・進路のしおりを作成し、全生徒に配布する。 ・進路相談室の充実を図る。 ・図書館に進路コーナーを設置し、生徒への情報提供を行う。	A	A	A	・6月に2週間にわたり全校三者面談を行い、全生徒、保護者がHR担任と学校生活や進路について面談した。全校三者面談は、学校生活や進路指導の相談の場として極めて有効であるため、次年度も継続して実施するとともに、面談の内容をより充実させる必要がある。	
10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(17) 進路について真剣に考え、その実現のために努力している生徒が70%以上である。	・学級懇談会や学年保護者会を実施する。 ・保護者への連絡を周知徹底するため、案内文書に加えメールでの案内も送る。 ・家庭との連絡を密にする。(担任) ・課題研究発表会等では、保護者に案内を送る。	B	B	B	・授業参観に参加いただいた保護者の方は多かったが、総会、懇談会などへの参加は少し減った。総会や懇談会へ参加人数が増えるようwebやmailなどで投げかけたい。	・「前工だより」の地域への配布は好評で、とてもいい取組だと思う。 ・課題研究発表会(全日制、定時制とも)はとてもよかった。ぜひ保護者にも見てもらえるよう、保護者が参加できるようにするとよい。
		(18) 学校の教育活動を人々に理解してもらうために学校公開を年3回実施している。	・ホームページの内容を随時更新する。 ・中3年生向けの学校説明会時やオープンスクール時に配布して広報する。 ・中学校訪問時に配布して広報する。 ・中学校への出前授業を実施する。	B	B	B	・「前工通信(学校新聞)」や学校案内を作成し、中学校へ配付した。地域住民へ前工だよりを配付した。次年度以降も記事の内容を充実させる必要がある。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(19) 保護者全員を対象とした学級担任による面談を年1回以上実施している。	・オープンスクールを行う。 ・学校公開を実施する。	B	B	B	・「前工だより」の地域への配布は好評で、とてもいい取組だと思う。 ・課題研究発表会(全日制、定時制とも)はとてもよかった。ぜひ保護者にも見てもらえるよう、保護者が参加できるようにするとよい。	・「前工だより」の地域への配布は好評で、とてもいい取組だと思う。 ・課題研究発表会(全日制、定時制とも)はとてもよかった。ぜひ保護者にも見てもらえるよう、保護者が参加できるようにするとよい。
		(20) PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が50%以上である。	・学級懇談会や学年保護者会を実施する。 ・保護者への連絡を周知徹底するため、案内文書に加えメールでの案内も送る。 ・家庭との連絡を密にする。(担任) ・課題研究発表会等では、保護者に案内を送る。	B	B	B	・6月に2週間にわたり全校三者面談を行い、全生徒、保護者がHR担任と学校生活や進路について面談した。全校三者面談は、学校生活や進路指導の相談の場として極めて有効であるため、次年度も継続して実施するとともに、面談の内容をより充実させる必要がある。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	(21) ICTを活用した授業を週1回以上行っている。	・ホームページの内容を随時更新する。 ・中3年生向けの学校説明会時やオープンスクール時に配布して広報する。 ・中学校訪問時に配布して広報する。 ・中学校への出前授業を実施する。	B	B	B	・ICTを活用した授業を週1回以上行っている。	・教育のデジタル化は順調に推移していると伺っている。さらなる進化を期待している。 ・ICT活用については、ソフトの活用、パソコン操作等を見る中で、若者らしい取り組みが感じられた。 ・授業等でのICT活用はよいが、一方で「ICTリテラシー」の指導、そして何より基本は面授での指導を引き続き重視していただきたい。
		(22) オンラインによる通知の割合が70%以上である。	・授業におけるICTの活用をする。 ・学習支援ソフトウェアの活用を図る。 ・学習用端末の利用する機会を設ける。	B	B	B	・電子メールやWebサイトなどのオンラインシステムを活用して生徒・保護者に通知を行った。今後はDXを導入し、業務の変革に努める必要がある。	
13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(23) オンラインによる通知の割合が70%以上である。	・ICTを活用した通知を活用する。 ・ICTを活用したアンケートを活用する。 ・オンラインによる通知を活用する。	B	B	B	・電子メールやWebサイトなどのオンラインシステムを活用して生徒・保護者に通知を行った。今後はDXを導入し、業務の変革に努める必要がある。	・電子メールやWebサイトなどのオンラインシステムを活用して生徒・保護者に通知を行った。今後はDXを導入し、業務の変革に努める必要がある。